

第3回 学校運営協議会 会議録

開催日時	令和5年2月8日（水）13：10～14：30		
会 場	本校会議室		
出席者数	学校運営協議会委員 12名	学校 7名	
出席者氏名	会長（北海道教育大学函館校 教授） 委員A（今金町教育委員会 事務局長） 委員B（社会福祉法人光の里施設長） 委員C（今金商工会事務局長） 委員D（相談支援事業所相談室ひかり相談員） 委員E（今金町農業協同組合 青年部顧問） 委員F（寒昇町内会 会長）	・学校長 飯出 広行 ・教 頭 金子 亘喜 ・事務長 市川 聡 ・教務部長 山本 拓郎 ・総務部長 内田 義文 ・進路指導部長 田中 博昭 ・支援部長 山田 みゆき	
次第および校長が意見を求めた事項		学校運営協議会委員の意見	
[本日の予定] 1 開会 2 学校長あいさつ 3 学校運営協議会会長あいさつ 4 日程説明 5 今年度の学校運営協議会の振り返り 6 次年度の学校運営協議会委員について（改選） 7 次年度の学校運営協議会について（部会の推進） 8 令和4年度学校評価について 9 次年度の経営方針、重点目標について（承認） 10 委員との意見交流、質疑 11 その他、諸連絡 12 校長あいさつ 13 閉会 ＊ 2 学校長あいさつ 第3回の学校運営協議会にご参加いただきありがとうございます。日頃から本校の教育活動に多大なご理解とご協力をいただきお礼申し上げます。新型コロナウイルスもだいたい落ち着きを見せてきましたが、予断を許さない状況です。政府の方は感染症の位置付けを見直す対策方針を決定しました。それに伴って北海道は対策本部会議や道教委でも検討した上で学校の具体的な対応が下ろされてくる。これまで3年間で学校はコロナ対策を講じながら創意工夫のもと教育活動を実践してきました。コロナ過でオンライン授業やICTの活用等でGIGAスクール構想は大きく進歩しました。一方、学校行事に関しては削減や縮小となっております。学校行事の意義、価値が問い直されているところです。また、学校における働き方改革の実践は待ったなしの状況。報道にあるように教職員の心身の健康の維持、生徒に向き合う時間の確保、少子化高齢化による労働生産年齢の人口減少に伴って、教育職への有能な人材の確保につきましては課題。そのような社会の状況、時代の動向を踏まえた学校運営をしていかなければならない。その上では、今日の学校運営協議会是我々にとっては貴重な役割、機能であります。本日は学校評価の結果やそれを踏まえました令和5年度の学校経営方針を短い時間ではありますが説明させていただきます。また、本会の今年度を振り返り、また来年度に向けた在り方等議論していただき、本校の学校経営に生かせるようにしていきたいと思っております。			

3 学校運営協議会会長あいさつ 新型コロナウイルスに関して少し落ち着きは見せているようではありますが、学校教育活動に関して言うにご苦労が多い。教職員の皆様の努力には敬意を表したい。本日は、学校教育の課題の解決に資するような、また、地域に開かれた学校になるべく具体的な方策を委員の皆様のご専門の立場で出していただければと思います。 4 日程説明 ＊次第のとおり 5 今年度の学校運営協議会の振り返り ＊別紙、第2回学校運営協議会 部会協議に関してのとおり 6 次年度の学校運営協議会委員について（改選） ＊別紙、学校運営協議会委員名簿のとおり 今年度終わりますので、改選となりますが、次年度もこのメンバーでお願いしたい。 小川 宏さんは、後援会の会長ですが、5月の総会で農協の組合長（小田島さん）と交代、2年任期 森 朋彦さんは総務財政課課長で7月の人事異動で変わる可能性があります。 小野寺さんは、保健師の立場で学校にご助言いただく関係で継続 小川ひとみさん、石川さんも継続 PTA 会長は卒業のため、4月に交代 小林さんは商工会事務局長から TAISHI へ異動となるが学校との関わりも深いことから継続でお願いしたい。 その他の委員も次年度の委員へ了承 7 次年度の学校運営協議会について（部会の推進） ＊資料なし 2回目の部会協議を受けて小集団の方が意見も出やすいため、次年度も4つの分科会で参加人数によって分けるなど、それぞれの立場で活発な会になるように考えています。 8 令和4年度学校評価について ＊別紙、学校評価資料のとおり 9 次年度の経営方針、重点目標について（承認） ＊別紙、経営方針・重点のとおり	・経営方針、重点目標について承認
--	-------------------------

10 委員との意見交流、質疑 (教頭) これまでは、届け出の申請手続き後に帰省帰舎の緊急時に所持で、寄宿舎管理となっていて寄宿舎内で使用することはできなかった。社会的に無意味なことだったので、使わせて学べるようにと検討を重ね、今月に寄宿舎内での指定場所のみ自由時間に使用ができるようになった。 ・SNSについては、学校としては禁止すれば楽だが、将来は必ず使うことになるので、社会生活と学校生活が乖離しないようにしたい。 ・生徒の人数が減ってきた関係で、通常は複数の居室だが次年度は3年生は個室のようになるなど検討中。 ・全道的に寄宿舎離れが起きている。綺麗な環境、整った環境を提供したい。	(委員 B) 学校評価（学校運営協議会委員）から ・「11」学校教育活動を見学したことがあるかという部分で、1回目の協議会を欠席した関係で授業等生活の場所を見学できなかったもので、次回は是非見学をさせていただきたい。 - また、卒業後の生徒を見ている関係で体感していることで、携帯電話等のトラブルが非常に多くイタチごっこのような状況。寄宿舎では携帯電話は所持できるのかお聞きしたい。 ・日常的に使用し便利な物だが、危険性も伴っている。これからのことを考えると使い方を学ぶことが重要。今金高等養護学校の寄宿舎では携帯が持てないから選考されない短絡的な時代になってしまったのかと心配になる。同じようなトラブルがあるので対応を共有していきたい。 (委員 C) ・経営方針の「5」より ワークキャリアアップ、ライフキャリアアップにあるとおり、学校の3年間だけでは難しい。社会に出た後引き継いで、受け入れている企業とか地域とかで継続して行けるように地域と一緒に学んでいく。卒業生が金町に残れるような支援をしてきたい。 立ち上げた就労支援事業所もワークステージとしキャリアアップしていくためのもの、グループホームは、ライフステージにしました。 また、保護者が自分の都合で学校を選択してしまう所は、学校側からは何もできないことだが、中学校や小学校、保育園や幼稚園で関わっていけば、個別の支援計画もあるはずなので、保護者とどうつながっていくかは難しいところではあるが、有効に使ってほしい。 (委員 D) 高校の選択の際、檜山北高校など定員割れしているため入れる状況にある。療育手帳を持っている生徒も入学している。
---	--

(校長) 本来本校で学ぶべき生徒が、インクルーシブ教育ということで、できるだけ受け入れる形になっている。また、通信教育も発達してる。本校のような学校に入るべき生徒がたどり着けない現実もある。 小さい段階から、その場、そのときの発達段階でしっかりとした情報提供をしていく。そのためには地域全体が特別支援教育を知っている。本校のことを知っていることが大事だと思う。	卒業後に会うことになるが、進路が決まらない、就職が決まらないなどの相談が毎年ある。 3年前に戻る、「仲間と一緒にいたかった」「今養に行くとは障害者として見られる」などのレッテルを貼られるのが嫌などの理由。 結局、3年後に行き詰まってしまうのが現状。一つの選択だと思うが。障害者がダメとかではなく、自分がどこに行っても自分の力を発揮できる所はどこなのか。今金高等養護学校・普通校どちらでも構わないが、とりあえずで選択すると、必ず3年後につまずく現実を毎年見ている。 もっと早く手を貸してあげることができたのではないかと、他に選択肢があったのではないかと感じる。 みんなで関わる機関として考えて行けたらと思う。 (委員 C) 保護者は養護学校の3年間では次の準備はできないと思う。本人も含めて。早く準備をすることが必要。 学校側にお願いしたいのは、学校卒業して一般就労できることが良いが、焦った答えを出して、その子の一生がつまずいてしまうことを避けることも必要。健常者でも高校卒業して自分に合っている仕事なのか分からない。大学や専門学校に行って、世の中のことを覚え働くスタートになる。焦らすことでつまずきが大きくなってしまう。ここ数年一般就労で受け入れた生徒を見てきて感じたこと。 (山田教諭) 檜山PTで感じていること。 それぞれの学校の先生の責任ではないですが、小学校やこども園の段階で保護者と共に先生方が先を見据えたことがスムーズな進路指導につながっている。本人の気持ちと違うこともあると思う。 今年度、檜山北部特別支援学級の小中学校との交流を行いました。コロナで全部の学校は参加できなかったが、作業体験を通じ児童生徒が「楽しかった」という事を感じ帰ってもらった。ハードルが下がり来やすい学校
---	---

情報発信など、学校に来てもらうことが一番だと感じる。本校の生徒を見てもらうことが大切。

本校では部活動でも取り組んではいません。

函館高等支援学校に在籍する生徒に関わっているが、私学に進学するか迷っていたが高等支援学校に進学して良かったと言ってもらった。就労も障害者枠ではなく一般就労した。情報があったからこそこのケース。

今養の情報発信は寄宿舎の魅力とかを出前で小中学校に発信することは良い。

委員の方は地元の方中心だが、今養と今金町の関係について、道立だが町立のような学校に思えるような関係性があるが、当たり前のように捉えがちだが、そこが凄い魅力の一つ。その点を大いに発信することが大切。

教職員の学校評価で、世代間ギャップが上がっていたが、昔からあること。学校経営方針の中で、教職員の研修が大切。ともすれば、働き方改革で学校研究をやめたり、研修を少なくしますなどの残念なことになりそうだが、重点の中に位置付けていることは素晴らしいこと。

11 その他、諸連絡

*大規模改修について

(事務長)

今年度から着手し寄宿舎の外壁関係が終了、学校側は暖房の配管と照明が終了。

次年度は、6月頃から2月頃まで寄宿舎の内部、学校側は外壁を行う予定。

また、体育館・プールの改修も予定されています。プールは令和6年から使用可能。今月27日に完成検査が行われる。

12 校長あいさつ

本日は各委員の専門的な立場から参考になるご意見とご示唆をいただきました。

意見の中で、町立学校のような学校であるというお話がありましたが、みなさんが我が町の学校、生徒だと思って意見を言っていた。それが本校の特徴。

他の道立学校の経験もあるが、こんなに地域が我が町の学校、生徒だと思っていてくれるところは他にない。全道でも希。これを更に売りにしていきたいと改めて感じた。

本来であれば、もっと学校内、生徒のこと先生方のことを知っていただきたい。

今後、落ち着いたときには学校に来て見て頂きたいと思います。

上記のとおり会議を開催した。

令和5年2月8日

北海道今金高等養護学校長

飯 出 広 行

